

## 秀吉の朝鮮出兵と朝鮮通信使

丸谷憲二

### 1 はじめに

朝鮮通信使といえば、江戸時代を連想される方が多いのではないのでしょうか。それ以前、15・6世紀の室町政権下でも行われ、日朝関係は概ね平和な通交関係が保たれて来ました。

### 2 朝鮮出兵 「文禄・慶長の役」

天正13年(1585)関白となった豊臣秀吉は、天正15年九州を平定し、ついで大陸に目を向けました。織田信長により戦国時代に終止符が打たれ、豊臣秀吉が天下を統一すると、朝鮮半島に最も近い対馬藩は、貿易の利益を求めするために朝鮮に対して日本との国交を再開するよう働きかけました。朝鮮からの使者を京都にまで案内し、豊臣秀吉に聚楽第(じゅらくだい)で引き合わせました。この時、朝鮮通信使が持ってきた国書には、秀吉の天下統一を祝い、これからますます国交を深めていきたいと書かれていました。「速やかに信を講じ睦(むつ)を修めて、もって隣交をあつくせん」と。ところが秀吉はこれを朝鮮国王から服従するように求められているとし、その翌年の1592年、突然15万人の兵を朝鮮半島に送り一方的に戦争を始めました。前後7年間、2度にわたる朝鮮出兵が「文禄・慶長の役」です。この戦争は1598年まで約6年間続き、秀吉が1598年に没し、戦果が芳しくなかった秀吉軍は朝鮮半島から撤退します。秀吉の死によってこの戦争は終止符を打ちましたが、朝鮮国全土は荒廃し、前の時代までの両国の良好な友好関係は崩れ去りました。

### 3 朝鮮通信使

江戸時代に入り、慶長8年(1603)征夷大將軍となった徳川家康は、秀吉の高圧的な外交から、「善隣外交」を旨とした友好的な政策を重視しました。そして、徳川幕府と朝鮮国との関係修復の実務を任されたのは、地理的にも最も近く、また朝鮮との独自の交渉ルートを持っていた対馬藩(現・長崎県)でした。朝鮮通信使がやって来た17世紀の初めは、秀吉軍による朝鮮出兵の傷跡がまだ癒えていない、日朝関係の「最悪の時代」でした。

朝鮮通信使とは、江戸時代、將軍の代替わりに信書を携え李王朝と徳川幕府の間を往復した善隣友好使節団のことです。江戸時代に朝鮮通信使が初めて日本を訪問したのは1607年です。総勢504名からなる、朝鮮通信使が江戸時代になり初めて日本を訪問しました。以降1811年迄の200年間に12回の訪問がありました。目的は日朝友好です。



## 4 「鎖国」と通信使

一般に江戸時代の国際関係は「鎖国」という言葉で代表されます。しかし実際には、オランダ・中国・朝鮮・琉球の四ヶ国と交流は続けられていました。その方法は相手国によってそれぞれ異なり、オランダ・中国とは長崎出島における通商関係にのみ限られ、琉球国は薩摩藩の属領としての扱いでした。

徳川将軍と国王が互いに国書を交換しあう、対等の友好国として交わっていたのが朝鮮国です。いわばわが国にとって唯一の、正式な「将軍の外交」であり、朝鮮国王より将軍に対して「信を通じる＝友好のあかし」使節として遣わされたのが通信使でした。

### 4.1 対馬藩・雨森芳洲

朝鮮との貿易に藩の命運をかけた対馬藩は、秀吉軍の朝鮮撤退後、交易の再開を求めて積極的に朝鮮に使節を派遣しました。雨森芳洲(1668～1755)は、江戸時代中期の儒学者です。木下順庵のもとで学び、22歳の時、対朝鮮外交の窓口である対馬藩に仕えました。芳洲は、みずからハングル語・中国語を学び、『誠信外交』つまり「外交の基本は真心(まごころ)の交わりである」と主張し、日本と朝鮮の善隣外交に尽力しました。

### 4.2 李朝朝鮮・松雲大師

松雲大師は、西生浦の倭城で加藤清正との講和交渉を担当し外交僧としての名声を高めました。1598年8月に秀吉が死去し戦争は終結しました。1604年に朝鮮から松雲大師ら僧の一行が来日し、徳川家康は二代将軍の秀忠と共に京都・伏見城で会見し、和解のための話し合いが行われ平和交流の象徴である朝鮮通信使の基盤を築きました。松雲大師は信義を通わせる外交を貫き平和への道を築きました。

### 4.3 牛窓民衆の歓迎

通信使一行の人数は、毎回300～500人の大使節団からなりました。その中心は、李朝朝鮮政府が選り抜いた優秀な官僚たちで、随行員には美しく着飾った小童・その芸に秀でた楽隊・画員(絵師)・武官・医師・通訳などが加わっていました。行く先々での応対は各大名が受け持ち、一行の警護役は往路・復路ともに終始対馬藩が担当しました。

通信使一行が、牛窓で宿泊するようになったのは、1624年に来日した第3回の使節からです。それまでの2回は、水の補給のために寄港したにすぎません。牛窓での使節の客館は、第3回から第6回までは古刹本蓮寺、そして1682年の第7回からは、岡山藩主の御茶屋が建てられました。

江戸時代の朝鮮通信使は、日本人にとって、世界の最先端文化を身近に触れることの出来る「文化交流使節」でした。一般随員の宿舎は、一般家庭でした。牛窓民衆との交流が「唐子踊り」として日朝交流史を今に伝えています。



#### 4.4 大韓民国 蜜陽市と松雲大師

瀬戸内市が江戸時代の「朝鮮通信使」をきっかけに大韓民国 慶尚南道 蜜陽市と国際友好交流協定を結んだのは平成 17 年 11 月 12 日です。職員派遣等の行政交流と市民レベルでの芸術・スポーツ等を通じて友好を深めます。

蜜陽市は釜山市の北西 80 キロの慶尚南道にある内陸都市です。四季折々の自然美を見せる景観と伝統あるまちには年間 100 万人以上の観光客が訪れます。豊かな耕地を利用し、稲作のほか青唐辛子・えごま・りんご等の野菜や果樹の栽培がさかんです。蜜陽市が国交回復の礎を固め、朝鮮通信使の先駆けとなった松雲大師の誕生地であり平成 17 年が訪日 400 周年となります。エーゲ海フェスティバル 2005 に蜜陽市から李相兆（イサンジョ）市長ら 18 人がお出でになりました。

#### 5 まとめ

岡山県民は朝鮮通信使は知っています。しかし、朝鮮通信使の基になった豊臣秀吉による朝鮮出兵「文禄・慶長の役」については、何も知らされておられません。一番重要なのが、「何故、秀吉が朝鮮出兵、文禄・慶長の役を決断したか」です。そして、朝鮮において何を行ったのか。岡山城主であった 1592 年文禄の役の宇喜多秀家（岡山城主）渡海総司令官就任と、1597 年の慶長の役 小早川秀秋（岡山城主）が総大將就任です。